

善き言葉・あしき言葉

今、社会問題になっている、子どもたちによる携帯電話等でのメールのやりとりで、相手の顔を知って会話しているのは、5人に1人という実態があると聞いたことがあります。文字のやりとりだけで互いの気持ち十分に通じ合えるのでしょうか。

インターネットの掲示板への書き込みがきっかけで、小学生が同級生の大切な命を奪ってしまったという事件が数年前に佐世保市で起きたことは記憶に新しいところです。

子どもたちを巻き込んだこのような事件の中には「ことば」の使い方や、人間関係に起因すると思われることが多くあります。メールでの「ことば」のやりとりだけでは、相手の感情や表情が見えず、互いの本当の気持ちは十分に通じないのではないのでしょうか。

メールだけでなく、毎日の子どもたちの会話の中にも、相手を傷つける「ことば」があり、そのことが現在のいじめや差別につながっているように思えます。

筆者がある日読んだ新聞の「コラム」の中に次のような「ことば」がありました。

『私たちが人に投げた一本の矢は二本となり私たちの体に刺さってゆく。』

私たちが怒ると一本は相手に飛び、一本は自分の心に刺さってゆく。怒った相手に飛んだ矢は二倍になって返される。私たちが口にする言葉や、怒る感情はまず自分の耳と心に入る。・・・善き言葉もあしき言葉も。

自分の耳が一番自分の口に近い。どんな言葉も、まず自分の耳に届き次に相手に飛んでゆく。人を叱ったつもりが自分自身がいつまでもイライラしてしまふことがある。怒り続けると自分が壊れる。相手を責め続けると自分の心もスタスタになる。

善き言葉もあしき言葉も最初に効くのは自分自身である。すべて私たちの体と心の両方に影響してゆく。

自分の口から出る言葉は、相手よりもまず自分の心に深く突き刺さり、自分自身を傷つけていることを知っておこう。』

要約するとこのような内容でした。

認める・ほめる・はげます

自分の口から出た言葉は、

確かに自分も聞いてはいるがこれまで、特に気にしたことはありませんでした。しかし、考えてみると、怒ったときに出る「ことば」は、自分自身をもイヤな気持ちにさせ、ほめたときの「ことば」は、自分自身も楽しくなっていることに改めて気付きました。

このように考えますと、毎日の生活の中で、子どもの行動を「認める・ほめる・はげます」ことが、子どもたちの自尊心を高め、豊かな心を育てることになることに気づきます。

自尊心をもった豊かな心からは、人を傷つける「ことば」や相手の心に突き刺さるような「ことば」は出ないはずですし、相手のことを大切にする態度や行動力が芽生えてくるはずです。

益城町のすべての子どもが、「自分の大切さと共に他の人を大切に」人間関係を築くことができる豊かな心を持った大人へと成長していただくことを、今、強く願っています。

益城町教育委員会

地名の歴史

歴史の変遷と地名

朝来山の中腹に「福田寺跡」があります。古文獻も無く資料としては、第一次世界大戦後の好景気の時と昭和四十年代列島改造の時の造園ブームのため寺域外に持ち出された跡に、わずかに取り残された板碑と五輪塔残欠、伝承だけの幻の寺です。

そのわずかの資料から当時の社会情勢の中で本町の中世史に大きな関わりを持つ福田寺を歴史の方面から考えてみます。

基礎資料には「熊本県史跡調査報告書」益城町文化財報告書第八集「益城町の中世山岳寺院」永田日出男著「福田寺跡覚書」「益城町史」があります。

これらの資料から①弘長二年（一二二一）坊主墓の五輪塔。②文永五年（一二三八）虎が塔、県内最大の五輪塔を最古に最後は③永禄七年（一五六四）坊主墓の板碑。

十三代将軍足利義輝時代）まで記年銘の石造物が九基発見されており、福田寺は鎌倉時代に開基され戦国時代まで石造物を造立出来る信仰と財力があつた事が推定されます。では福田寺と朝来山の関係

299

ですが、当時益城町では①飯田山常楽寺、②津森宮の西福寺と東西の宗教圏があり、それに挟まれて③赤井・木崎・木山・寺迫・安永・福原地域の宗教空白地帯があつた。④この頃貴族仏経ではなく衆生済度・現世利益を旨とする鎌倉新仏経が勃興した。⑤山岳寺院の言葉通り開基は名峰である事などの条件が揃った。また肥後で鎌倉幕府の勢力を伸ばしたい北条氏が、後発寺院福田寺の勢力伸長を謀りそれを拠点とした政略が背景に新仏経の一つとして修験の聖地、朝来山に福田寺が開基されたのでしょう。



内寺地区の背後にある福田寺跡

益城町文化財を訪ねる会

会長 松野國策